

まんさく

2020 Spring | <https://www.niimi-u.ac.jp>



Niimi University

【特集】

新・健康科学部の1年 新見公立短期大学 感謝の会

各学科から

健康科学部 健康保育学科

健康科学部 地域福祉学科

健康科学部 看護学科

助産学専攻科・大学院看護学研究科

同窓会だより

同窓生の近況

研究紹介

小田副学長：難治性小児血液腫瘍性疾患の発症要因・病態解明、
新規治療法の開発などに関する研究

学生だより

News & Events

ふるさと納税のお願い、入試日程 ほか

新・健康科学部の1年



新見公立大学は2019年4月より完全四年制化となり、新・健康科学部としてスタートいたしました。昨年10月には北海道にある名寄市立大学と学術交流協定を締結し、今後は学生・職員の交流や研究・教育の共同実施を計画的に実施するなど、新たな取り組みにも挑戦しております。

本学は1980年の新見女子短期大学の開設以降、2020年で開設40周年を迎えました。

また、本年7月にははいよいよ地域共生推進センター棟が完成を迎え、今秋には40周年記念式典も予定しております。

今後もさらなる飛躍をめざす新見公立大学を皆様にご期待いただくとともに、今後も変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



- 4月** ● 新・健康科学部開設式／入学式
- 5月** ● 第21回鳴滝祭
- 入試説明会(会場:ピュアリティまきび)
- スポーツ大会(学友会)



- 6月** ● 入試説明会(会場:新見公立大学)
- 7月** ● オープンキャンパス第1回、第2回
- 8月** ● オープンキャンパス第3回
- 助産学専攻科特別選抜入試



- 9月** ● 新見市集中豪雨発生
- 10月** ● 名寄市立大学(北海道)と学術交流協定を締結



- 11月** ● 助産学専攻科一般入試
- 地域福祉学科推薦入試

- 12月** ● クリスマス会(学友会)



- 1月** ● 健康保育学科・看護学科推薦入試

- 2月** ● 新見公立短期大学感謝の会
- 学部入試(前期)



- 3月** ● 学部入試(中期・後期)
- 学位授与



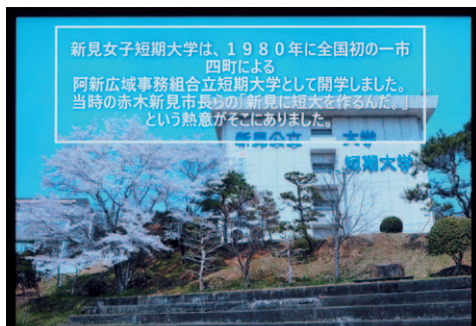
新見公立短期大学感謝の会

令和2年2月5日に新見公立短期大学感謝の会が開催されました。最後の卒業生となる幼児教育学科と地域福祉学科の学生に加え、卒業した先輩方にも参加していただき、新見女子短期大学から始まった39年間の歩みを振り返りました。

感謝の会では、開学当時の様子を知る元職員の方のインタビューや、これまでお世話になった教員の紹介などを収めたDVDを観賞しました。

最後は短期大学へ感謝の想いを込めて全員で学歌を歌いました。

感謝の会終了後は卒業生と教員で茶話会が行われ、互いに短期大学の思い出を語り合いました。



健康科学部 健康保育学科

今年度の振り返り・次年度に向けて

健康保育学科では、教育の体制を整え質の高い保育学教育を実施するとともに、地域交流支援の企画として、「にいみドラムサークルトライアル」や「にいみゆめのぼけっと」を開催しました。

どちらの企画も学生の日頃の学びを披露する良い機会となるとともに、子どもを笑顔にする保育者の資質を養うことができました。2020年度は、あらゆる子どもの発達を支える保育専門職の育成を目指し、保育領域における高度な知識と技能、実践力を教授します。

1年間を振り返って

健康保育学科1年次生 荒牧 克明

私はこの1年間を振り返ってみると、新しいことへの挑戦が特に多かったように感じます。なかでも一番大きな挑戦は、周りの環境に適應することです。私は高校生まで北海道で生活しており、大学生になってから岡山県に引っ越してきました

た。高校と大学では勉強の内容はもちろん、私に限っては場所や気候も大きく違って、慣れるのに苦労しました。それでも、時間が経つにつれて私は慣れていき、いつの間にか大学生活に魅力を感じるようになっていました。大学生活は、まだまだ始まったばかりで、これから学ぶことは多いと思いますが、私は様々なことに挑戦し、成長できるよう努めてい

きたいです。



1年間のボランティア活動を振り返って

健康保育学科1年次生 白波瀬 桃花

入学して1年間のうちに、芋掘り、小学校での読み聞かせ、イベントのスタッフなど様々なボランティア活動を行いました。芋掘りでは、地域の方と一緒に苗を植えるところからできて、とても貴重な体験になりました。読み聞かせボラン

ティアでは、最初は読み聞かせをすることに慣れず、緊張しました。しかし、回数を重ねる中で、読み方を工夫したり、子どもたちの反応を見ながら読んだりする余裕が生まれ、楽しいと感じるようになりました。毎回の本選びも、季節や子どもたちの興味があるものを考え、子どもたちが聞きたいと思う本を選ぶようにしていました。これらの活動を通し、子どもたちとのコミュニケーションのとり

方について学ぶことができたと思います。貴重な経験となったので、今後に生かしていきたいです。



幼教2年の卒業運動会

幼児教育学科2年次生

東郷 結佳・山藺 紗和

今回の運動会は学校の行事ではなく、2年生の最後に何か思い出作りがしたいという思いから「自分たちで企画して運動会をやろう!」という話になりました。定番のリレーや借り物競争に加え、新見公立短期大学の幼児教育学科らしい運動会となるよう、準備体操ににいみん体操

を取り入れたり、整理体操でパブリカを踊ったりなど、全員が楽しめるよう工夫しました。2年間一緒に過ごしてきた仲間ですが、運動会を通してみんなの知らなかった部分や意外な一面も知ることができました。みんなが参加し、チームのみんなを応援していて、良いクラスだなと改めて感じました。運動会ができて楽しかったことももちろんですが、私は、学科の全員で運動会が出来て本当に嬉しかったです。新見公立短期大学で素敵な

仲間や先生に出会い2年間過ごせたことが誇りであり、一生の思い出です。



にいみゆめのぼけっと

幼児教育学科2年次生 大下 夏海

12月14日に「にいみゆめのぼけっと」が開催され、多くの地域の方々にご来場いただきました。私たち幼児教育学科2年生は歌とダンスを発表しました。中・四国保育学生研究大会の発表から反省点を見つけ改善したり、一部演出を変更したりして、クラス全員で発表しました。2年間新見で学んできたことの集大成と

して自分たちの出せる最高の発表ができたと思います。目の前の子どもたちが踊ってくれたり、歌ってくれたりと一緒に楽しむことができました。「ゆめのぼけっと」を通してクラスの仲をより深めることができ、本当に新見に来て良かったと感じました。今回学んだことを生かし、

これからはそれぞれの道で頑張っていきたいです。



健康科学部 地域福祉学科

今年度の振り返り・次年度に向けて

地域福祉学科では、2019年度の第一目標として短期大学最終学年の全員が介護福祉士資格を得て無事に卒業することを掲げ、達成しました。今後も先輩として、大学を見守ってくれることと思っています。同時に四年制大学1期生を迎え、これまでの地域との交流をより学びに結び付けられるよう「基礎ゼミナール」を組み立てなおしました。2020年度は2期生を迎え、「地域との協働くまち」に出よう、くまち」に学ぼう」を着実に進めていきます。

基礎ゼミナールC(しんごう湖畔マラソン)に参加して

地域福祉学科1年次生

蓮井 韻樹 他8人

私たちは、基礎ゼミナールの授業の一環として、神郷高瀬地区で行われたしんごう湖畔マラソンのボランティアに行きました。大会前日には、会場設営や参加賞の準備を行いました。参加賞は、地元でとれたとても立派な白菜と大根、神郷

温泉の無料入浴券、氷室豆腐があり、とても郷土愛が感じられるものでした。大会当日は、受付や走り終えた人のチップ回収、撮影ブースの運営などをしました。撮影ブースは、自分の走ったタイムを表示して記念写真を撮ることができる手作りのタイマークロックや、新見市のキャラクターをあしらった団扇を用意しました。実際に記念写真を撮って下さった人も多く、喜ばれていました。

神郷高瀬地区の様々な世代の方々とか

わり、会話し、自然とコミュニケーション能力を高めていくことができました。そして、地域に根付いたイベントを催すことが地域活性化につながると思いました。



災害ボランティアを体験して

地域福祉学科1年次生 市本 大希

私は2019年9月に新見市で発生した豪雨災害のボランティア活動を行いました。2018年の西日本豪雨災害でも地元である広島県三原市が被害に遭いボランティア活動をしました。まさか大きな豪雨災害に2年連続で遭うとは思いませんでした。

災害当日は私も外出していて、冠水した国道を自転車で通りなんとか家に帰るといった体験をしていたので、被害も多いのだろうと思っていました。実際にボランティア活動に参加すると、想像していたよりも被害が大きく、ボランティアの助けを必要としている人がたくさんいることを知りました。活動のなかで大変だったのは、重労働なことが多いということです。泥水に浸かってしまった家具や窓の搬出は重たく、砂ぼこりがまうた

め時間がかかり大変でした。災害が起きたときに自分の身を守る行動を、そして助け合って災害を乗り越えなければならないと痛感する体験となりました。



私が新見ではたらく理由

地域福祉学科2年次生 橋本 拓哉

山口県出身の私は、新見に来て2年間、介護福祉士をめざして勉強してきました。初めは地元に戻って就職しようと考えていましたが、新見市内の介護現場で働いている先輩方から話を聞く内に卒業後も新見に残って働きたい気持ちが湧いてきました。

そして、その気持ちを後押ししてくれたのが新見のまちです。私が市内のゴン

リンスタンドでアルバイトをしていたとき、多くの常連さんから「新人さん？大変だろうけど頑張るね。」と励まされました。私はこの何気ない一言がとても嬉しくやる気も出てきました。さらに、新見は四方を山に囲われ中心に高梁川も流れています。私の生まれ育ったところは港まちだったのでこの風景はとても新鮮でした。新見市は遊ぶところが少ないですが、地域の人々は温かく、静かで仕事に取り組みやすい環境が整っているの

新見に住むことを決めました。

内定をいただいた社会福祉法人恵愛会では、自分のやってみたいことにどんどん挑戦させていただける雰囲気があります。また、地域福祉学科を卒業した先輩も大勢いらっしゃるため、相談しやすい環境であることも魅力のひとつです。

春から新見市民として働き始めますが、いち早く利用者さんに信頼される介護福祉士になりたいです。よろしくお願いたします。



鳥取県立 倉吉西高等学校

地域福祉学科1年次生 村田 美晴

私の母校の特徴的な取り組みとして、チャレンジグループ活動があります。チャレンジグループ活動とは、10年後の自分を見据えたキャリア形成の柱と位置づけられており、自分の将来就きたいと思う職業について情報収集を行い、フィールドワークを通して新たな課題を見つけるという探求活動です。私は

この活動を通して、少子化とともに深刻化している児童虐待への支援を行う児童相談所の存在を知り、児童福祉司になりたいと思うようになりました。チャレンジグループ活動などにおいて、社会に出ても通用する態度、他者への感謝と思いやりの心を常に意識しながら学生生活を送っていました。将来の自分の理想像を明確にすることで、自分のすべきことが見えてきます。大学でも勉強と共に社会活動へ積極的に参加し、将来を見据えながら有意義な時間の活用をしていきたいと思っています。

健康科学部 看護学科

今年度の振り返り・次年度に向けて

看護学科は、2019年4月学部開設10年目を迎え、定員を80人に増員し、養護教諭養成課程、訪問看護・地域看護コースを設置しました。新たに看護学教育モデル・コア・カリキュラムを取り入れ、教育目標に掲げている地域共生社会における看護基礎教育課程の基盤づくりを進めました。

2020年は、全世代の健康支援の基礎となる看護学の知識・技能の学修と多職種連携に必要な学修をとおして、地域で活躍する看護専門職の育成を目指します。

基礎看護学実習Ⅱの学び

看護学科2年次生 山崎 恵梨子

7日間の病院実習を通して、初めて受け持ち患者さんと関わらせていただき、実際に患者さんの援助を行うなど今まで経験したことないことを体験し、多くのことを学ぶことができました。実習のカンファレンスでよく挙げたのはコミュニケーションに関することでした。初めは患者さんとどのように接していけばいいのかわかりませんでした。戸惑うことばかりでしたが、看護師さんの助言や実習グループで考えていくことで、「このように声をかけたら患者さんは答えやすいのではないか」と患者さんの様子を意識したり、患者さん自身の思いや希望などの気持ちを傾聴していくことが大切だとわかりました。患者さ



んの辛い気持ちを受け止めることや患者さんの気持ちに寄り添うことを忘れずに、得られたものを生かして次の実習に繋げていきたいと思います。

救命救急医療論

災害看護の講義を受けて

看護学科3年次生 大上 紗也乃



講義では、傷口の保護やトリアージの方法等の演習に加え、各領域の災害事例で実演を行いました。私は母性領域の演習を行い、災害時、乳幼児を連れての避難所での生活は、オムツやミルクなどの消耗品の不足や、泣き声や授乳時の周囲への気遣い等母子ともに大変ストレスのかかる環境であることがわかりました。段ボールで周囲からの視線を遮るための衝立やタオルとビニール袋でオムツの代用品を作ったことが印象に残っています。身近にある物を使って出来る限りの対応を考え、物資不足の問題を解消できることを学ぶことができました。その他にも、母親のストレスを軽減するために、お母さん同士で交流ができる部屋を作る等、様々な視点からの支援の必要性を感じました。各領域の支援の方法や看護職としての役割を学ぶことができたので、来る災害に備えてこれからも勉強を続け、今回の学びをより深めていきたいと思います。

看護師国家試験を終えて

看護学科4年次生 梅垣 美奈子

国家試験を終え、無事に受けることができた安心感と達成感を味わっています。本格的な勉強を始めてから、勉強しなければいけない量の多さと求められるレベルの高さに驚き、試験が近づくにつれて不安も大きくなりました。しかし、先輩方からの応援メッセージや差し入れ、チューター長の先生をはじめ、いつも励ましてくださった先生方のサポートを受けて乗り越えることができました。そして何より、一緒に頑張る友人の存在は大きかったです。毎日の勉強に何度も挫けそうになりましたが、同じ目標に向かって頑張る友人に励まされました。最後まで頑張ることができたのは、周りのサポートがあったからだと思います。春からは、試験勉強よりも大変な日々が始まると思いますが、自分なりに努力して頑張っていきたいと思います。



助産学専攻科・大学院看護学研究科

本学の先輩のような 助産師を目指して

助産学専攻科長 四宮 美佐恵

2015年に助産学専攻科が開設し、5年が過ぎました。少子化の影響もあり、学生一人につき10例の分娩介助を経験することが年々難しくなっています。しかし、2016年に、倉敷成人病センターとの連携協力に関する協定を結び「新見公立大学くらしきサテライト」が開設したことにより、医師や助産師さんの臨場感あふれる講義や、年間約1,600例の分娩件数と教育環境が整った臨床で実習ができています。また、本学の卒業生も臨床経験を重ね、実習指導に携わるようになり、在学生にとって先輩が指導してくださることはとても心強く、緊張感の中にも安らぎを感じているようです。本学の先輩のような助産師を目指して、一人でも多くの方が、助産学専攻科に進学してくださることを期待しています。



助産学実習を通して 心に残っていること

助産学専攻科 景山 美穂

助産院で長期間関わらせて頂いたご家族で、陣痛が始まったお昼から夜間・翌日のお昼にかけて入浴したり、階段昇降をしたりと、様々な方法を試して皆で赤ちゃんが生まれてきてくれるのを待ちました。畳の部屋で好きな体勢をとり、旦那さんに支えてもらいながら赤ちゃんが生まれた瞬間、産婦さん自身の力で産むこと・自然なお産とはこういうことか、と実感しました。また、お産後に産婦さんから「ずっと声をかけてくれてありがとう、すごく心強かった」と言ってくれたことで、何でも頑張れると思えたほど大きなパワーを頂きました。この実習での学びや新たなご家族との出会いを大切に、助産師として頑張っていきたいと思っています。



大学院で学ぶ意味

研究科長 杉本 幸枝

大学院は、2年または最長4年間（長期履修制度）で、30単位以上修得し、修士論文の審査に合格することで、修士の学位を取得することができます。本学は2014年に開設し、5年間で25名の修了生を輩出しています。

研究構想発表会、中間発表会、公開発表会では、徐々に形になっていく研究成

果、発表者の凛とした姿は印象的です。そのあとのほっとした大学院生が私は好きです。それまで何度も学会発表をしている大学院生が、指導教員とともに何度もリハーサルを繰り返し、臨んだ発表会。だからこそ得られる喜びがあるのだと思います。学部を卒業後さらに大学院で学ぶということは、研究テーマを深める・学位取得という意味だけでなく、新しい自分を発見する贅沢な時間ではないかと思っています。

大学院を修了して

大学院看護学研究科3期生
森本 光弘

大学院での2年間は、自分にとって仕事と学業の両立で身体的・精神的にも厳しいものでした。しかし、多くの同期が育児と仕事をしながら学んでいる姿に、自分も両立していこうと頑張れました。一緒に学ぶ仲間や指導教員をはじめ、先

生方のサポートがあったからこそ困難を乗り越え修了できたと感謝しています。現在も同期の仲間達とは、メールなどで情報交換をしたり、同期会を開催し、近況を話合っています。これからも大学院での学びや同期達との交流を大切にしていきたいと思っています。



同窓会 だより

多くの卒業生が
来学してくれて
います!!



同窓会事務局
からのお知らせ

同窓会開催のお手伝いをします

卒業生の皆様が同窓会を開催される際、大学がそのお手伝いをさせていただきます。

学部・学科と卒業年度及び開催時期などを本学学務課へお知らせいただければ、同窓会の案内を発送し、出欠を取りまとめ、同窓会幹事へ連絡をします。同窓会を企画されている幹事の皆様、ぜひご連絡をください。

ご寄付をいただきありがとうございました

本学創立40周年に向け、卒業生の皆様方に一口1,000円の寄付をお願いいたしましたところ、令和2年3月末現在、個人262人、2団体から総額838,370円のご寄付をいただきました。同窓会へ多額のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。皆様のご寄付に対しまして心よりお礼申し上げます。

今後とも、会員相互の交流を深め、絆を強め、活発な同窓会活動を行うため、同窓会員皆様のご理解ご協力及びご寄付を引き続きお願い申し上げます。

同窓会評議員会延期のお知らせ

毎年5月の鳴滝祭に合わせて開催している評議員会については、新型コロナウイルスの影響により延期とさせていただきます。今後は秋に予定しています開学40周年記念式典と合わせて開催できるよう準備をさせていただく予定です。

皆様方におかれましても、時節柄何卒ご自愛いただき、また秋にお会いできることを楽しみにしております。



※2018年度就職合同説明会のものです。

恩師や母校を懐かしんで訪れてくれるだけでなく、後輩たちへの激励や職場での研究活動における助言・指導を得るため、結婚する友人へのサプライズ動画撮影など、様々な目的で母校に帰ってきてきています!



難治性小児血液腫瘍性疾患の発症要因・病態解明、新規治療法の開発などに関する研究

～多施設共同臨床研究の基盤整備と治療成績の向上を求めて～

副学長 小田 慈

子どもにもがんは発生します。毎年2,000人を超える15歳未満の小児が様々な小児がんを発症しています。小児がんは大きく造血器腫瘍（血液のがんである白血病や悪性リンパ腫）と固形腫瘍（体の様々な組織のがんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫など）に分けられます。この中で一番発生数の多いものは白血病で、小児がん全体の約4割、800～900人を占めています。

私が岡山大学医学部を卒業し、岡山大学病院小児科で1年目の研修を送っていたころ、小児の白血病は、まだ不治の病と認識されていました。苦しい闘病生活の末、命を落としていく幼い子どもたちを何人も見送りました。卒業2年目の春、香川県立中央病院小児科に赴任し、臨床に明け暮れた最も小児科医らしい毎日を4年間にわたって過ごしました。この時間の流れの中での白血病の子どもたちとの出会いと別れ、ご家族との交流体験が私の小児科専門医としてのサブスペシャリティを自然に決めていったように思います。

岡山大学小児科に帰局後は、当時のウイルス研究室に属し、新生児ヘルペスウイルス感染症や慢性活動性EBウイルス感染症の病態解明の研究に免疫学的手法を使って取り組むとともに、大学病院で小児の血液・腫瘍性疾患、特に白血病の診療に夢中になっていました。当時は、白血病の診断は主に白血病細胞の形態や染色性に基づいて行われ、治療も、欧米の著名な治療施設から報告された治療方法を適当に真似たものが行われていました。

当時、私が書いた論文（掲載された学術誌はそのころ、我が国では一流誌とされていました）を見てみると、多数の岡山大学小児科関連施設で治療された、60症例余りの急性リンパ性白血病の小児例をかき集めて治療成績を報告し、結論は「今後、さらなる症例の蓄積と検討が必要」としていました。また別の論文では、僅か8例の小児急性骨髄性白血病の症例に対して新規抗がん剤を組み合わせた化学療法を行い、「予後の改善が認められた。今後さらに症例を増やし検討する」と結論づけていました。一方、このころ欧米では既に大規模な多施設共同臨床研究が進められており、1,000例を超える症例を対象に科学的根拠に基づいた治療と病態解明のための基礎的な研究が進んでいました。

小児の白血病の治療・研究環境について、欧米と我が国のこれほどの格差に愕然としていたのは私だけではありませんでした。当時、30～40歳、まだ大学医学部や大学病院の医員や、せいぜい助手クラスであった仲間たちと手弁当で学術集会のあとに集まり、わいわいがやがやとディスカッションを続けました。夜になるとお酒を飲みながら深夜まで話し合いが途切れませんでした。この集まりをAT (Aggressive Therapy) 研究会と命名し、大学の枠を越えた共同研究を進めようという話がまとま

るまで時間はかかりませんでした。当時、小児急性リンパ性白血病の中で、まず救うことはできないとされていたフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の我が国における診断と治療の実態調査を行った結果を学術集会で発表し、小児科領域における全国共通の治療プロトコルによる多施設共同臨床研究の必要性を強く訴えました。

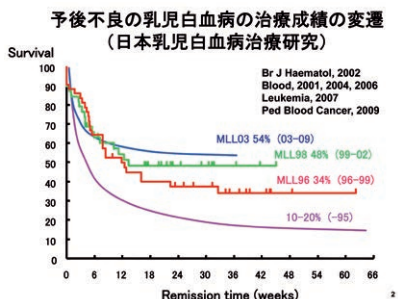
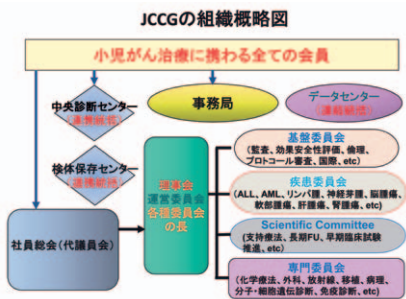
この訴えは、まず、同様に極めて予後不良であった乳児白血病の全国studyという形で花が咲きました。我が国で初めて、全国統一の臨床研究：National Studyが実現したといっても過言ではありません。現在では、米国、欧州そして我々の3つのグループによる共同の臨床研究が世界的規模で行われています。

その後AT研究会は、JACLS (Japan Association of Childhood Leukemia Study)、JPLSG (Japan Pediatric Lymphoma/Leukemia Study Group) へと発展し、そして2015年、固形腫瘍研究グループも巻き込んだJCCG (Japan Children's Cancer Study Group) となり、念願であった全国統一の小児がん治療研究グループが生まれました。

現在、取り組んでいる主な研究課題は、①白血病細胞などを用いて、分子細胞学的解析を行い、難治性白血病の予後の更なる改善を目指す、②JCCGにおける小児がんの基礎的研究、多施設共同臨床研究、ならびに欧米、アジアの多施設共同研究グループとの更なる交流、情報交換を行い、難治性小児がんの治療成績の向上を図る、③小児がん患者・家族の意識調査、実態調査などを行い、一般の臨床現場に還元する、④AYA (思春期から若年成人) 世代に対するがん治療体制の構築に関する研究、などがあります。

私が医師になったころ“不治の病”ととらえられていた白血病をはじめとする小児がんは、わずか45年の間に“curable disease”となりました。小児の急性リンパ性白血病の治療率は9割近くになりました。これはひとえに科学的、倫理的根拠に基づいて繰り返し行われた多施設共同臨床研究と基礎的研究の賜物です。もちろん小児がんに罹患してしまった子どもたち、そして献身的に支えられたご家族のご協力・ご尽力を忘れることはできません。

この間ずっと協力して臨床・基礎的研究に携わってきた全国の仲間たちは、現在いろいろな立場で人生を送っていますが、皆、盟友であり生涯の友です。夢をもって、その実現のために一人ひとりが努力する。継続は力なりとつくづく感じる今日この頃です。



大学40周年ソング

40周年を迎えた本学では、「卒業生や後輩、地域に歌い継がれる歌を作ろう」をテーマに、有志学生によるキャンパスソングを制作中です。この歌には「大学や地域の魅力」を盛り込むと同時に卒業された先輩方に母校を思い出してほしいとの思いがあります。

制作には情景描写ピアニストの山地真美さんに作曲をお願いし、新見をイメージしたメロディーを学生たちが選曲、その曲に合わせて歌詞づくりを行っています。

完成後は、レコーディングを行うとともに、制作過程を動画にし、卒業生の皆様にも大学ホームページなどで視聴いただけるよう検討しています。

学生だより

1年間の学修を振り返って

看護学科1年次生 中村 和人

入学当初は、基礎分野の科目が比較的多く、専門分野の勉強は少ないため、看護学を学修している感覚が少なかったのですが、6月の基礎看護学実習Ⅰで岡山大学病院、倉敷中央病院の1日見学実習を通して看護師の方が働いている実際の姿を見ることができました。見学実習を通して、学内での学生同士で行う演習では感じることのできない臨床の雰囲気を知ることができ、看護学への興味関心が高まりました。また、毎年11月には、1・2年生の学生が自主的に看護学を学ぶための機会として看護学セミナーを開催しています。2019年度は西日本豪雨災害発生時に被災地で働かれていた方々からのお話を伺いたいと考え、現地で活躍した看護師と保健師の方を講師として呼びました。見学実習や看護学セミナーなどを通じて、現場の看護職の方から話を伺うことで改めて「看護とは何だろう」と考える機会にもなりました。



2年生からは1年生の時よりも専門的な科目が多く、勉強も難しくなってきます。また、来年の2月には2週間の基礎看護学実習Ⅱが待っています。それまでに知識、技術をしっかり身につけ、仲間たちと切磋琢磨しながら、将来の看護師像を形成していきたいと思います。

ゆめのぼけっとを通して

健康保育学科1年次生 稲谷 未羽

ゆめのぼけっととは、1年の集大成として毎年行われている表現発表会です。今年の演目としては、ダンス、歌、パネルシアター、楽器演奏、劇、絵本の読み聞かせ、造形遊びなどを行いました。

私たち1年生は5つのグループに分かれて、絵本を元にした劇を行いました。劇で使う材料や衣装などは全て自分たちで考え、先生方の協力も頂きながら制作しました。朝早くから1限目が始まる前まで練習し、授業が終わった後も夜遅くまで練習しました。劇で使う道具も何度も作り直しをしたこともありましたが、たくさんの苦勞を乗り越えたからこそ、私たちにとっての最高の劇を作り上げることができました。

ゆめのぼけっとを通して、子どもの目線に立って考えることや、子どもたちが劇の世界観に入り込める場面構成、物を一から作ることの大変さを学びました。私たちが、劇を通して子どもたちに伝えたいことがきちんと伝えることができるかどうかを、子どもの目線に立って考えることが大事だということを感じました。

四大化となった健康保育学科の1期生として、一つ一つの行事を大切に、記憶に残るゆめのぼけっとを作り上げていけるよう、頑張りたいと思います。



土下座まつりに参加して

地域福祉学科1年次生 山栴 千夏

私たち地域福祉学科の学生は300年以上の歴史を持つ土下座まつりに参加しました。このまつりは正式には「御神幸武器行列」といい、敬神崇祖の高揚と領民の安寧、五穀豊穡を祈念するために新地入国時に行った大名行列を仕立て、毎年10月15日に同じ順路でまちを練り歩くという格調高い行事です。まつりでは地域の人と一緒に神輿を担いだり、学生だけで担ぐ神輿を出し、氏子の皆さんからご祝儀を頂きました。

土下座まつりには、拝観している人が立ったり行列の前を横切ったりすると行列が止まってしまうというしきたりがあり、皆座って拝観している光景は新鮮に感じられました。また平日にもかかわらず大勢の人が拝観しており、地域の人に愛され、大切にされているまつりだと感じました。その反面、近年の土下座まつりは高齢化で神輿の担ぎ手が足りず、やむを得ず神輿が出せないところもあるという現状を知りました。若者の力として、学生の参加がまつりを盛り上げる要素になっていると感じました。また、私たち学生にとってもまつりに参加することは伝統継承を肌で感じられたり、地域の一員になれたりするような貴重な機会になると感じました。私は今年、お囃子隊として土下座まつりに参加します。より一層熱意を持って参加したいと思っています。



クラブ & サークル 紹介

バレーボール部

部長：中島 遥輝(看護学科2年次生)

バレーボール部は、毎週火・木曜日に体育館で活動しています。活動内容としては主にゲーム形式での試合を行います。メンバーは全員で50人を超えており、男女混合で未経験者も多いです。そのため毎回多くの人数で活動することができ、先輩も後輩もとても仲良く楽しんでいます。明るい性格のメンバーが多いため、いつもにぎやかなサークルですが、気軽に楽しく体を動かせるサークルとしてこれからも活動していきたいと思っています！



News & Events

学内のお知らせ
イベント案内

2021年度入試日程

【大学】

■健康科学部

入試区分	実施学科	出願期間	試験日
推 薦	地域福祉学科	2020 11/ 4(水)～11/12(木)	2020 11/28(土)
	健康保育学科 看護学科	2021 1/18(月)～ 1/23(土)	2021 1/29(金)
一般(前期日程)	全 学 科		2021 2/25(木)
一般(中期日程)	地域福祉学科	2021 1/25(月)～ 2/ 3(水)	2021 3/ 8(月)
一般(後期日程)	健康保育学科 看護学科		2021 3/12(金)

■助産学専攻科

入試区分	出願期間	試験日
特別選抜	2020 8/11(火)～ 8/18(火)	2020 8/28(金)
一 般	2020 10/26(月)～11/ 2(月)	2020 11/14(土)

【大学院】

■看護学研究科

入試区分	出願期間	試験日
一般・社会人特別 (前期)	2020 9/ 7(月)～ 9/14(月)	2020 9/26(土)
一般・社会人特別 (後期)	2021 2/ 1(月)～ 2/ 8(月)	2021 2/20(土)

※大学院の後期日程については、前期日程で定員を満たさなかった場合にのみ実施します。

行事日程(予定)

日 程	内 容
7/26(日)	第1回オープンキャンパス(予定)
8/ 9(日)	第2回オープンキャンパス(予定)
8/23(日)	第3回オープンキャンパス(予定)
10/11(日)	開学40周年記念式典
10/17(土)・18(日)	第22回鳴滝祭

奨学金制度

名 称	種別	採用人数	金額	内 容
新見公立大学 ふるさと育英奨学金 (申請先:新見公立大学)	給付	健康保育学科4人 地域福祉学科4人 看護学科5人	10万円 (年額)	本学学部入学生の内、入試成績が優秀であり、かつ本学が定める家計基準等を満たした学生に給付します。申請に基づき、入試種別ごとに選考します。
新見公立大学 奨学基金 (申請先:新見公立大学)	貸与 (無利子)	制限なし	30万円 (上限)	本学在学生在が国内外の研修等に参加する場合、又は緊急な事情等により経済的に困窮した場合に貸し付けます。卒業までに返還する必要があります。
新見市看護学生 奨学支援金給付制度 (申請先:新見市)	給付 (条件付)	4人程度 (新入生・在学生含む)	10万円 (月額)	新見市内の医療機関等で、看護師として勤務しようという意思のある看護学生に給付されるものです。卒業後、新見市内の医療機関等に4年以上勤務する必要があります。(市長が認める場合は、新見市内の医療機関等に4年以上勤務するまでの間、新見市外の医療機関等に5年以内従事することができます。)
新見市介護学生 奨学支援金給付制度 (申請先:新見市)	給付 (条件付)	4人程度 (新入生・在学生含む)	5万円 (月額)	新見市内の介護事業所等で、介護福祉士として勤務しようという意思のある介護学生に給付されるものです。卒業後、新見市内の介護事業所等に3年以上勤務する必要があります。

新見公立大学ふるさと育英奨学金で 学生を支援しています。

本学では、新見市の「ふるさと納税(ふるさとにのみ応援基金)」制度による寄付金を財源として、本学独自の給付型奨学金「新見公立大学ふるさと育英奨学金」を2019年度4月から運用しています。この給付型奨学金を活用して、看護・保育・福祉を学びたいと考えている優秀な学生を応援し、保健福祉の人材を育成したいと考えています。

皆様からの、母校に対する温かい寄付金が、保健福祉をリードする人材の誕生を支えます。母校で学ぶ後輩の夢を応援してください。

ふるさと納税

ふるさと納税は、自分と関わりが深い地域を応援したいという思いを活かすため、地方公共団体に対して寄付を行った場合に、所得税と個人住民税が軽減される制度です。

お申し込み方法

以下の方法でお申し込みいただけます。

A. インターネットからお申し込み

○新見市ホームページの「電子申請サービス」からお申し込みできます。以下のアドレス

新見市ふるさと納税ホームページ

<https://www.city.niimi.okayama.jp/kurashi/>

[kurashi_detail/index/1259.html](https://www.city.niimi.okayama.jp/kurashi_detail/index/1259.html)

○ふるさと納税サイト「さとふる」からお申し込みできます。以下のアドレス

さとふる新見市ふるさと納税ホームページ(クレジットカード等できます)

<https://www.satofull.jp/city-niimi-okayama/>

B. 郵送、FAX、メールでのお申し込み

学報「まんさく」に同封しました「新見市ふるさとにのみ応援基金 寄付申出書」に必要な事項を記入してください。その際に寄付金の使途目的を『ゆたかな「文化のまち」』に指定し、『うち新見公立大学・短期大学』に寄付金額を記入してください。記入後は、郵送(岡山県新見市新見310-3)またはFAX(0867-72-6243)またはメール(kikaku@city.niimi.lg.jp)で新見市役所総務政策課へ送ってください。

【お問合せ先】新見公立大学 学務課 TEL:0867-72-0634

まんさく

2020年3月号
Vol.59(Spring)



編集
後記

本学は今年度で1980(昭和55年)年の開学から40周年を迎えるに当たりまして、本年10月11日(日)には、創立40周年記念式典を企画いたしております。これを大きな一つの節目として、今後も皆様方から期待される「人と地域を創る大学」の実現にお応えできますよう、全教職員一丸となり尽力致していく所存でございます。

さて、皆様は「NiU」が何の略語かご存じでしょうか？これは2019(令和元年)年度より、本学が健康科学部3学科(地域福祉学科、健康保育学科、看護学科)となった際に生まれました略表記です。「新見公立大学」の英語表記「Niimi University」の略表記が「NiU」となります。「新見公立大学」と同時に生まれたこの「NiU」という表記も、今後様々な場面におきまして、皆様方のお目に触れることもあると思われまいますので、これを機には是非とも周知していただきますようお願い申し上げます。

本市におきましては、昨年9月の集中豪雨による土砂崩れや洪水などにより、多くの方が甚大な被害に遭われました。慣れ親しんだ新見市のまちの風景は、一夜にして全く違ったものとなってしまいました。以後復興努力が継続されておりますが、未だに平穏な日常を取り戻せておられない方々もおられます。被災された皆様方におかれましては、一日も早く平穏な生活に戻れることを心より願っております。

また本誌の編集時期におきましては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行によりまして、我が国のみならず世界各地におきまして多数の方が、見えない恐怖に不安な日々を過ごしておられます。このようなかつてない危機的な状況におきまして、保育・看護・介護など専門職の皆様方には、それぞれの現場において、まさに死力を尽くしてこの混乱の終息に取り組んで頂いております。

本学におきましては、このような「人々の幸せ」を支える専門職を目指す学生が、日々研鑽に努めております。今後も地域の皆様を中心に、多くの方々からのご支援を賜りながら、地域に根ざした明るい未来に向けての新たな学びの場として、さらに大きく飛躍できるよう尽力致して参ります。

今後とも地域の皆様、卒業生の皆様には、変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。(泉)

発行

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL: <https://www.niimi-u.ac.jp/>

編集

広報委員会

広報部長

梶本 佳照

広報委員(50音順)

泉 宗孝 佐藤 伸隆 高橋 彩
 棚田 裕二 羽場 裕倫 久恒 拓也
 平田 智子 藤田 彩見 山根 智幸
 山本智恵子

人事異動

こくろうさま

〈退 職〉

理事 事務局長 奥舎 達典
 理事・健康保育学科 特任教授 安達 雅彦
 看護学科 教授 杉本 幸枝
 // 特任教授 佐々木 順造
 // 准教授 山下 亜矢子
 健康保育学科 教授 住本 克彦
 // 准教授 吉村 淳子
 地域福祉学科 講師 佐藤 伸隆
 // 助教 棚田 裕二
 総務課 次長・課長 田枝 修己

〈転 出〉

総務課 主査 黒川 徹
 // 主任 羽場 裕倫
 学務課 参事 古家 孝之
 // 主査 平田 智子

どうぞよろしく

〈新採用〉

看護学科 特任教授 山田 雅夫
 // 講師 藤井 靖子
 // 講師 赤田 いづみ
 // 助教 小林 匡美
 // 助教 安藤 亮
 地域福祉学科 講師 松田 実樹
 // 助教 柳迫 三寛
 教育支援センター 特任講師 逸見 晶子
 // 特任講師 城井田 郁江
 // 特任講師 小藤 信子
 学務課 主査 都田 里美

〈転 入〉

総務課 次長・課長 石橋 博
 // 主査 梶原 基典
 // 主事 藤原 悠三
 学務課 課長補佐 林 良之
 // 主事 渡辺 未樹

〈再 任〉

理事長・学長 公文 裕巳

〈任 命〉

理事 副学長 小田 慈
 // 学生部長 斎藤 健司
 // 事務局長 田枝 修己

〈昇 任〉

看護学科 准教授 山本 智恵子
 // 講師 百田 由希子
 // 講師 丸山 純子
 // 講師 吉田 美穂
 // 助教 多田 めぐみ
 健康保育学科 講師 久恒 拓也
 学務課 主任 岡本 侑記

〈氏名変更〉

看護学科 助教 中川 彩見

2019年度 進路状況 (3月31日現在)

(単位:人)

学部・学科	内訳	卒業	専門職	一般職	進 学
健康科学部看護学科		58	49(2)	0	7
助産学専攻科		5	5	0	0
幼児教育学科		55	54	1	0
地域福祉学科		38	30	2	6

※()内は未定者数

おめでとう

新見公立大学
看護学科、助産学専攻科

看護師、保健師、助産師

合格率100%(新卒)
達成!

新見公立短期大学
地域福祉学科

介護福祉士国家試験

合格率100%(新卒)
達成!

おめでとう